石屋工務店 かわら版

第132号

H27年12月1日 発行

石屋工務店 TEL 075 492-1483（シックニ イシヤサン）

京都市北区大宮薬師山東町 47－5　建設業／京都府知事(般-25)第 31625 号　インテリアコーディネーター登録店

観光して思ったこと

先日、大学の学友と京都観光をしました。テーマは庭園で蓮華寺・円通寺・大徳寺の庭園を見に行きました。今年の紅葉は色があまりよくないと聞きますが、それでも、庭園と合わせてとても美しく感じました。写真は円通寺のアプローチに植えてあるスギゴケです。十年前のコンパクトカメラで撮りましたが、綺麗に撮れていると思います。ところで、最近ではカメラの性能が上がり、綺麗にすばやく撮ることができるようになりました。また、スマートフォンのカメラ機能も性能がよいのでちょっと撮りたいという時に、気軽に写真が撮れます。その手軽さが仇となっているのでしょうか、お寺を参拝するときのマナーが悪い人も増えてきたように思えます。写真は思い出を形にして残す、その写真をFacebookなどに投稿して友人と情報を共有するなどよいコミュニケーションの手段となります。ですが、鑑賞しているのはあくまでも撮っている本人であり、お寺や庭園から頂けるものをしっかりと受け止めるべきだと思います。写真は撮りすぎない・三脚など通行や鑑賞の邪魔になるものを使わない・撮影禁止のところはカメラを仕舞うなどマナーを考えて、礼儀作法を守って鑑賞しなければならないと感じました。

古野　充宏

料亭 石屋の多趣味人生 その108

STAR WARS

スターウォーズの新作がついに公開です。ファンとしましてはうれしい限りです。第一作目（物語としては四話目）を私が初めて観たのは十八歳、高校三年生の時でした。大学受験を控えていた夏休み、息抜きの為に観に行ったのです。現在のようにCGが無かった時代すべてがアナログでここまでの戦闘シーンや町並みが実際に造られた事に驚きを隠せません。今までに無いアングルで戦闘シーンが撮られ、爆発シーンもそれまでになくリアルでした。当時も非常に評判になり、一種の社会現象にもなりました。世界中の映画会社が宇宙物の映画を製作するようになったのもこの頃です。当時もう一作、宇宙物で凄かったのが「未知との遭遇」でした。こちらは派手な戦闘シーンは無かったのですが、それまでSFマニアが思い描いていたUFOは「コワルスキー型」と呼ばれる物でした。それが全く違う形で規模も美しさも今までに見た事の無い物でした。この二本の映画がそれからの映画の常識を変えたと思います。スターウォーズの二作目は社会人になってからでした。たぶん二十一歳の時だったと思います。当時は先行ロードショーが有り封切の一週間前の深夜にやっていました。指定席も当時は有りませんので、開場の一時間前には並んで素早く席を取り始まるのを待つのです。いよいよ明かりが全て消され真っ暗なスクリーンからスターウォーズのテーマ曲が流れだすと満員の客席から拍手と歓声が上がります。三年間待ちに待った二作目でした。当初からスターウォーズは九部作だと言われていたのですが、三作目を造った段階でこれで最終とアナウンスされました。制作費が捻出できなかったためです。それがCGを使う事で四作目から制作ができ、今回ディズニーに権利が移って初めての作品になります。今回もファンが集まり、拍手と歓声ではじまるのでしょうか？

石屋　紀次

大学祭

私の大学ではキャンパスごとで合計八日間の大学祭があり、そのうち二日、私の所属する吹奏楽部はステージ演奏と出店をしました。大学祭でのステージ演奏は私たちにとって最も大きなイベントです。今年は二回生を中心に、例年以上に練習を重ねてきました。今まで女子部員しかいなかったところに男子部員も加わり、よりパワフルな演奏になったと思います。そして私たちの部は毎年、えびせんに卵焼きをのせた「えびたません」を百円で売っています。どこよりも価格を抑えている為、残念ながら利益はほとんど出ません（笑）利益を出すことよりもとりあえずみんなで楽しんでいます。それが私たちの良さなのだと思います。普段は、授業が終わると部室に集まりみんなでしゃべったり、練習後みんな一緒に帰ったりしています。学年を越えて仲が良く、アットホーム雰囲気で居心地が良いです。こんなメンバーでの最後はクリスマス演奏です。素敵な演奏ができるようにまた練習に励みます。

中西　恵梨

蟹三昧

毎年、主人の田舎の兵庫県竹野へ、お墓参りをする為に帰省しています。田舎の家はもう誰も住んでいないので、近くにある「休暇村竹野海岸」に毎年泊まっているのですが、今年は蟹の解禁の後だったので、夕食には蟹のフルコースを頂きました。国民休暇村なので蟹のコース付でもお手頃な値段で宿泊できます。蟹の生のお造りに始まり、ゆで蟹、焼き物、揚げ物、蟹鍋などをお腹一杯頂きましたが、不思議な事に蟹づくしは飽きることがありません。ちょっとしたお料理の違いで、また美味しく頂けました。やはり京都で食べる蟹より、とても新鮮です。翌日、帰る日にも、いつも立ち寄る魚屋さんに寄って蟹を買って帰りました。前日にあれほど食べたにも関わらず夜には、また家族で蟹を取り合いながら頂きました。毎年の帰省には、このほか帰り道で食べる出石そばも、楽しみの一つです。なんだか帰省と言いつつ、食べる事の楽しみが、大きな目的となってきています。

山本　夕起子

夢のかけ橋

この時期に書く内容は紅葉しかありません。毎年必ず行くところがあります。福井県の九頭竜湖です。ここの紅葉は綺麗なので時期になると観光客が結構多いです。この九頭竜湖に「夢のかけ橋」といわれる橋があります。この名前の橋は全国に幾つかあります。この九頭竜湖にある橋は全長二六六mで、正式な名前は「箱ヶ瀬橋」と言います。本州と四国を結ぶ瀬戸大橋のプロトタイプ（試作品）として建設されたもので、所謂縮小版です。今年初めてこの橋の真ん中まで歩いてみました。歩いてみるとやっぱり普通の橋でした。この九頭竜湖の紅葉は行きと帰りで趣が随分違います。今年は例年より早くて終わり気味でした。街中の冷え方とはすこし違うようです。帰りに大野城の辺りをすこし散歩し、楽しみの「黒龍」のお酒を数本買い求めました。帰宅後キュッキュッと一杯晩酌でほろ酔いです。

石坂　晴夫